

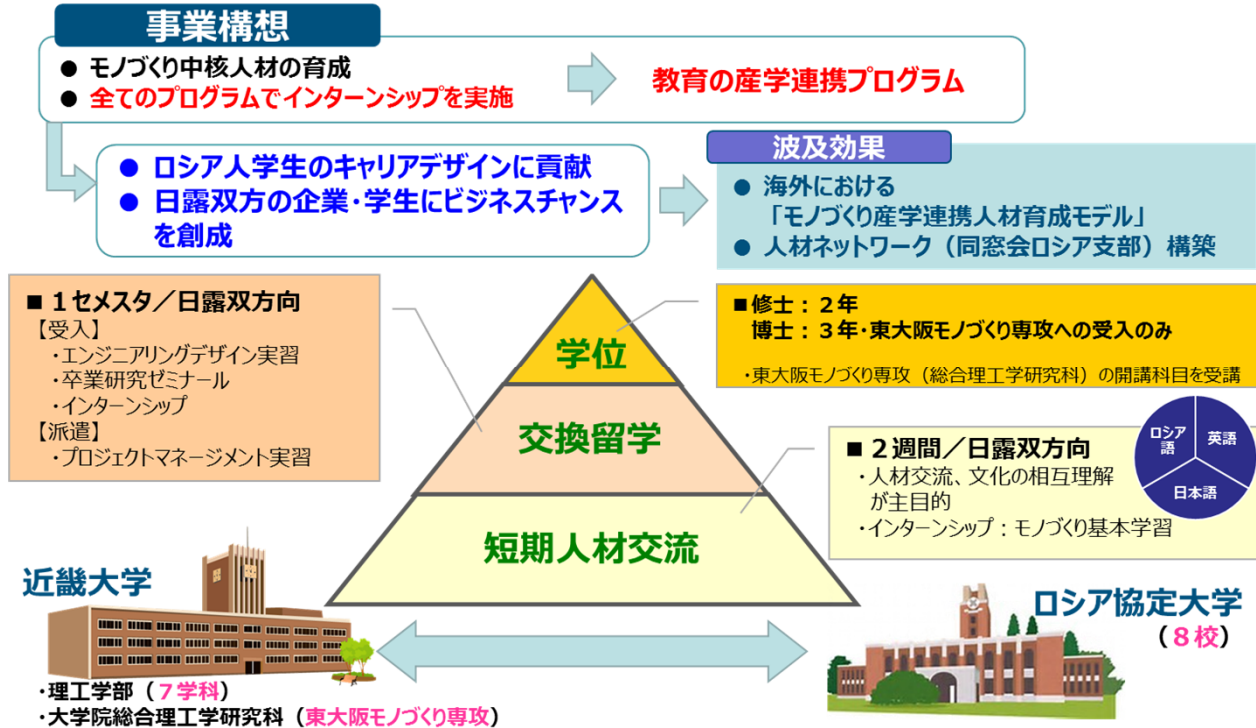
大学の世界展開力強化事業(平成29年度選定) 近畿大学 取組概要

【事業の名称】(選定年度29年度・(タイプAロシア))

日露間で活躍できるモノづくり中核人材の育成

【事業の概要】

本事業は、近畿大学とロシアの協定校が学部から大学院にわたる学生交流に取り組む、教育の産学連携プログラムである。教育プログラムは近畿大学で培われてきたモノづくり人材育成の経験とノウハウに立脚し、さらに近畿大学の立地条件を生かしたモノづくり企業からの実務的な協力を基盤として構成されている。



【交流プログラムの概要】

教育プログラムは①短期人材交流プログラム(2週間/双方向)、②交換留学プログラム(1セメスタ/双方向)、③学位プログラム(修士:2年、博士:3年/東大阪モノづくり専攻への受入のみ)の3層で構成され、これら全てにおいて企業でのインターンシップが実施される。また、②では、ロシア協定校と人材ニーズを十分に反映した協同教育の企画・運営を行い、協同教育プログラム委員会の設置等、単位互換・ジョイントディグリーの可能性を検討する。ロシアに留学する学生に対しては初等ロシア語教育、危機管理教育等の渡航前教育を十分にを行い、ロシアからの受入学生には日本語・日本文化研修等を人材交流の一環として実施する。本事業の円滑な実施のため、マグロの養殖事業を通じて近畿大学と協力関係にある豊田通商株式会社および豊田通商ロシアと連携し、豊田通商ロシアのモスクワ、サンクトペテルブルグ事業所内に、近畿大学モスクワおよびサンクトペテルブルグ事務所を設置している。両事務所は、本事業におけるロシア企業の人材育成ニーズ調査、ロシア国内でのインターンシップ実施、学生の安全確保・危機管理のための情報収集等を一括して行う。

【本事業で養成する人材像】

日露間で事業展開する企業において製品開発プロジェクトを推進・牽引できる実務型のグローバル人材を育成する。

【本事業の特徴】

本事業提案の背景は日本の経済再生、ロシアの経済発展にある。近畿大学が強みをもつモノづくり分野の教育プログラムをロシアに展開し、本事業の目的を達成する。モノづくり教育を通じて、現場で活躍できる実務型のグローバル人材を育成し、また、日露双方の学生・企業にビジネスチャンスを生み出す。さらに、近畿大学は、理工、医学、農学、水産、原子力等の分野の教育・研究活動を推進する総合大学として、本事業を通じてロシアとの人的交流の飛躍的拡大に貢献する。

【交流予定人数】

	H29	H30	H31	H32	H33
学生の派遣	5	15	20	20	20
学生の受入	5	15	20	23	26

1. 取組内容の進捗状況(平成29年度)

【近畿大学】

【日露間で活躍できるモノづくり中核人材の育成】(選定年度29年度・タイプA(ロシア))

■ 交流プログラムの実施状況



〈短期人材交流プログラムの様子〉

・短期人材交流プログラムの実施

1月に2週間の受入プログラムを実施し、ロシアの交流協定校5大学から学生10名、教員4名が参加した。また、2月には2週間の派遣プログラムを実施し、本学学生12名がモスクワ国立大学、ドゥブナ国立大学、ロシアに進出している日系企業4社で研修を行なった。これらの研修を通じて双方の学生交流が進み、さらに「モノづくり」に対する理解を深めることができた。

交流プログラムにおける学生のモビリティ

○ 日本人学生の派遣

14名の学生をモスクワ、ドゥブナ、トリヤッチ、サンクトペテルブルグなどロシア各都市に1～2週間派遣した。

○ 外国人学生の受入

ロシアの交流協定校5大学(モスクワ国立大学、サンクトペテルブルグ国立大学、ドゥブナ国立大学、モスクワ工業物理大学、極東連邦大学)より10名の学生を受け入れた。

	H29	
	計画	実績
学生の派遣	5	14
学生の受入	5	10

■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

・キックオフシンポジウムを実施、交流のある9大学の代表団が来日

キックオフシンポジウムを2日間にわたり3月に実施。本事業の交流実施7大学の代表団および「モノづくり」を共有するロシアの2大学から代表者が参加。今後の大学間交流の枠組みや本事業への取組について議論した。



〈キックオフシンポジウムの様子〉

■ 外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備

・ロシア6大学と新たに大学間交流協定を締結

サンクトペテルブルグ国立大学、ITMO大学、ドゥブナ国立大学、ロシア連邦政府付属ファイナンシャル大学、極東連邦大学、モスクワ工業物理大学(MEPHI)の6大学と新たに大学間交流協定を締結し、各大学との交換留学を実現する環境を整えた。



〈キックオフシンポジウムの様子〉

■ 事業の実施に伴う大学の国際化の状況、情報の公開、成果の普及

・理工学部4学科、国際学部1学科から参加

全学的な協力・連携のもと、理工学部の学生のみならず、他学部の学生に対しても海外研修へ参加する機会を提供した。訪問先の大学では日露双方の学生交流を通じて世界観を広げ、また、「モノづくり」に関心のある学生がロシアに進出する日系企業4社で研修を行ない、国際経験を積む貴重な機会となった。これらの研修成果は学内外の報告会を発表を行なっている。

■ グッドプラクティス等

・「世界展開力強化事業(ロシア)」を国内外にアピール

3月に実施したキックオフシンポジウムには国内外から約600名の参加があった。とくに日本側からは世耕弘成経済産業大臣兼ロシア経済分野協力担当大臣、ロシア側からゴロジェツ・オリガ副首相(ロシア教育問題担当)、オレシキン・マクシム経済発展大臣が参加し、講演ならびにパネルディスカッションを行なった。両国の閣僚がキックオフシンポジウムに参加したことで本学のプログラムのみならず、「世界展開力強化事業(ロシア)」を国内外に周知することができた。